

(公財)日本野鳥の会
名誉会長に柳生博、新会長に上田恵介
が就任いたしました

(公財)日本野鳥の会(事務局:東京都品川区 理事長:遠藤孝一)は、2019年6月19日(水)開催の評議員会において、会長に上田恵介(前副会長)、名誉会長に柳生博(前会長)を選出し、両名が就任しましたことをご知らせいたします。

■公益財団法人日本野鳥の会 名誉会長・会長・副会長(2019年6月19日就任)

- 名誉会長 やぎゅうひろし 柳生博 (前会長/俳優)
- 会長 うえだけいすけ 上田恵介 (前副会長/立教大学名誉教授)
- 副会長 えんどうこういち 遠藤孝一 (現理事長/日本野鳥の会栃木県支部副支部長)
- 副会長 さとうひとし 佐藤仁志 (前理事長/島根大学非常勤講師)

■歴代会長

初代	中西悟堂(歌人・詩人)	1934年～
第2代	山下静一(元経済同友会副代表幹事)	1981年～
第3代	黒田長久(鳥類学者)	1990年～
第4代	小杉隆(前衆議院議員)	2001年～
第5代	柳生博(俳優・作庭家)	2004年～

就任にあたって

●名誉会長 柳生博

振り返るとあつという間の15年の会長職でした。創立者である中西悟堂に次ぐ任期を務めることができたのはとても光栄なことです。

この15年間「どんな難しい問題も、対立ではなく話し合いで解決を図る」「いつも野鳥の立場になって、環境問題を考える」「確かな未来は、長い時間をかけて人が自然と折り合いをつけてきた里山に代表される、懐かしい風景にこそある」をモットーしてきました。また、自分たちの「損得」ではない、野鳥の立場にたった「真心」を込めた日本野鳥の会会員の皆さんの活動に触れるにつけ、「会長になってよかった」「いい役をやらせてもらった」と、しみじみと感じてきました。

今、名誉会長に「昇進する」といった気持ちです。これまでと同じように、日本の多様性に富む自然を尊び、人と自然が共存する豊かな社会の実現をめざしていきたいと思いません。

●会長 上田恵介

私は小学生の頃に日本野鳥の会の存在を知り、それ以来の会員です。中西悟堂初代会長に手紙を書いて、「小学生だから会費はいらぬ」という返事をいただき、少年バードウォッチャーとして入会しました。

現在、野鳥を愛する潜在的なバードウォッチャーは、10万人とも20万人ともいわれています。野外で鳥を見ることはハイキングや散歩と同じように、身体を健康を増進させてくれます。そして鳥や自然に心を通わせることは、私たちの感性を豊かにし、鳥を見るという活動自体が、未来の子供たちに豊かな自然を残していくための活動につながります。

私たちがやらなければならない自然保護の課題は山積しています。時には毅然とした態度で対峙しなければならないこともあるでしょう。そうしたときにも、私たちは野鳥が持つ魅力を広く皆さんに伝えていくことで、そのほかの生き物を含めた、豊かな自然環境を未来に残す活動を進めていきたいと考えています。

■名誉会長 柳生 博(やぎゅう・ひろし)



1937年茨城県生まれ。俳優。作庭家。

土浦第一高校から東京商船大学に進学するも視力の低下により船長の夢を断念。俳優座養成所に入り俳優として歩み出し、1961年、今井正監督の「あれが港の灯だ」でデビューする。以降、司会やナレーション、講演会など多方面で活躍。

1989年、自らの手で10年以上にわたって整備した山梨県八ヶ岳山麓の森を「八ヶ岳倶楽部」としてオープン。野良仕事の大切さを説く。

1986年より日本野鳥の会会員、2004年より日本野鳥の会会長を15年にわたって務め、2019年6月より名誉会長に。

●現職

日本野鳥の会名誉会長(2019年6月～)

コウトリファンクラブ会長(2004年～)

八ヶ岳倶楽部オーナー

●主な出演番組

朝のテレビ小説『いちばん星』(NHK)／野口雨情役

『すばらしい味の世界』(テレビ東京)／ナビゲーター

『Do サタデー』(関西テレビ)／司会

『クイズハンター』(テレビ朝日)／司会

『生きもの地球紀行』(NHK)／出演およびナレーション

『平成教育委員会』(フジテレビ)／レギュラー回答者

『NNNドキュメント』(日本テレビ)／ナレーション

『爆報 Theフライデー』(TBS) など多数

●著書

『八ヶ岳倶楽部 森と暮らす、森に学ぶ』(講談社)

『八ヶ岳倶楽部Ⅱ それからの森』(講談社)

『風景を作る人 柳生博』(辰巳出版)

『じいじの森』(清流出版)

■会長 上田恵介(うえだ・けいすけ)



1950年大阪府生まれ。理学博士。動物生態学者。立教大学名誉教授。鳥類を中心とした動植物全般の進化生態学、行動生態学を専門とするかたわら、環境問題の研究にも取り組む。野鳥や自然に関する一般書の執筆、テレビ・ラジオ出演では、柔らかく、わかりやすい解説に定評がある。

1963年の小学生の頃から、日本野鳥の会会員。

2015年6月に日本野鳥の会副会長に就任。2019年6月より会長に就任。

●経歴

1984年 大阪市立大学理学研究科(博士課程)単位取得退学

1985年 理学博士号を取得、日本学術振興会特別研究員

1986年 三重大学教育学部非常勤講師

1989年 立教大学一般教育学部 助教授

1995年 立教大学理学部化学科生命理学コースに移籍 助教授

2000年 立教大学理学部生命理学科 教授

2016年 立教大学理学部生命理学科 教授を退官、同大学名誉教授に

●所属学会

日本動物行動学会(会長在任期間2007年～2010年) 日本鳥学会(会長在任期間2014年～2015年)

日本生態学会 BOU(英国鳥学会) AOU(アメリカ鳥学会) オーストラリア鳥学会

●現職

立教大学名誉教授

日本野鳥の会会長

日本野鳥の会が発行する鳥類学論文集『Strix(ストリクス)』編集長

立教セカンドステージ大学および立教新座中高非常勤講師

●主な著作

『一夫一妻の神話—鳥の結婚社会学』(蒼樹書房)

『鳥はなぜ集まる』(東京化学同人)

『花鳥虫のしがらみ進化論』(築地書館)

『野外鳥類学を楽しむ』(海游舎、編集)

『図鑑 NEO 鳥』(小学館、監修) など多数

●主な TV・ラジオ出演

『ダーウィンが来た』(NHK 総合テレビ)

『天才! 志村どうぶつ園』(日本テレビ)

『石丸謙二郎の山カフェ』(NHK ラジオ第1)

『子ども科学電話相談室』(NHK ラジオ第1) *レギュラー出演

■「日本野鳥の会」とは

1934年（昭和9年）、野鳥研究者で僧侶・詩人・歌人でもあった中西悟堂が創設。創立時のメンバーには、柳田国男、山口蓬春、杉村楚人冠、山階芳麿、黒田長禮など、そうそうたる名が連なる。2019年に創立85周年を迎えた、日本で最古にして最大の自然保護団体で、現在、会員・サポーター約5万人。

野鳥観察の楽しみや自然保護意識の普及活動を行うと同時に、タンチョウ、シマフクロウなどの絶滅危惧種の保護活動や、生息地の保全活動を展開。各都道府県に全87の支部・連携団体を持ち、各団体はそれぞれの地域での探鳥会や保護活動を担っている。

<組織概要>

■組織名 : 公益財団法人 日本野鳥の会 (Wild Bird Society Japan)

■代表者 : 理事長 遠藤孝一

■所在地 : 〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

<https://www.wbsj.org>

■主な事業

●野鳥や自然を守る事業

- ・シマフクロウやタンチョウ等の絶滅危惧種の保護を目的とした野鳥保護区の設置
- ・IBA（重要野鳥生息地）等、生息地の保全
- ・風力発電や太陽光発電による野鳥への影響についての調査・提言
- ・渡り鳥や海鳥の保全に関する国際連携
- ・野鳥保護に関する法制度改正への働きかけ など

●野鳥や自然を大切に思う心を伝える事業

- ・自然系施設（直営・受託）でのレンジャーによるガイド
- ・入門用冊子類の配布や、初心者向けバードウォッチングの開催
- ・野鳥図鑑の販売 など

■報道関係者様 問い合わせ先:

公益財団法人 日本野鳥の会 広報室

〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL:03-5436-2632(平日 10-17時) / FAX:03-5436-2730

E-mail:hensyu@wbsj.org

URL:<https://www.wbsj.org>